

「〜できてよかった」は上から目線に

朝の会を回っていて、一年C組担任の1教諭から、素敵な話を聞きました。内容もさることながら、話しぶりも明るくユーモラスで、学級の中に笑いが埋まれています。国語科の私にとっても勉強になりました。

彼の準備した話題は、学校生活で中学生がよく使う「〜できたのでよかった」という表現についてです。この表現を自分の家庭で使ったら、奥様からそっぽを向かれると、1教諭はいきなり笑顔で言い出しました。

「おいしい料理を食べることができてよかった。」
確かに、この表現には、相手によっては素直に喜べない部分があります。自分が料理を作ったならまだよいのですが、自分以外の人が料理を作った場合では「上から目線での発言」としてとらえられてしまうからです。
「いつもはまずいの？」などと、奥様に怒られている彼の姿が目には浮かびます。

生徒の皆さんは、自分の立場から仲間を評価するとき、この「よかった」という言葉をよく使いますよね。仲間同士だから通用することであり、立場が違う人に使ったら逆効果になる可能性は大ですよ。

彼のこの後の話が、担任としてすばらしいものだったと、私は感動しました。

「『よかった』という言葉を使って上から目線ともとれる言い方で表現するのではなく、『私は』を使って、『私は〜うれしかった』『私は〜感動した』というように、自分はどう思ったかを語ろうよ。」

これはとても大切なことだと、私は思いました。「よかった」などという相手との距離を感じさせる薄っぺらな言葉より、自分にとってどうだったのかを語ること。

「おいしい料理を食べることができて、私はうれしい」と言えば、相手は幸せな気持ちになるはずですよ。もっともっとおいしい料理を作ってくれるかもしれないですよ。

文章を書くことが苦手だという人の作文を読んでみると、「よかった」が多く使っています。その言葉では自分の思いや考えを具体的に表現できないから、文章が長くなりません。文章が長くないから「苦手だ」という意識が生まれてくるのです。

日常的に自分の思いや考えを語る事が大切です。ぜひ意識してみてくださいね。

(六月三十日 記)